

目 次

I	平成29年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	8
2	調査問題一覧表【設問別】	9
3	特徴的な問題と解説	10
iii	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	12
2	調査問題一覧表【設問別】	13
3	特徴的な問題と解説	14
iv	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	18
2	調査問題一覧表【設問別】	19
3	特徴的な問題と解説	20
III	調査結果概況【市全体】	24
IV	成果と課題	26

I 平成29年度 さいたま市学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 各学校は、自校の教育の成果と課題について、市全体の状況を基に、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育課程の編成に生かすとともに、「さいたま市小・中一貫教育」を踏まえ、教育指導の工夫改善に取り組む。
- (2) 児童生徒は、自らの学力面の伸びや課題及び生活面の成長や課題を継続的に把握し、理解することで、よりよい学習習慣や生活習慣の確立のために生かす。
- (3) さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）は、児童生徒の学習や生活状況について、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。さらに、そのような取組を通じて、学校における教育指導の継続的な工夫改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- (1) さいたま市立小・中・特別支援学校の原則として各学年の全児童生徒を対象とする。なお、これ以降、小学校及び特別支援学校小学部を「小学校」、中学校及び特別支援学校中学部を「中学校」と示す。
- (2) 「学力に関する調査」は小学校第3学年から中学校第3学年まで、「生活習慣等に関する調査」は全学年で実施する。
- (3) 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている場合、調査の対象とする。ただし、取出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日等

- (1) 調査実施日は、平成30年1月10日(水)とする。
- (2) 小学校第1、2学年の「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて調査用紙の家庭への配付日を決定し、適切な回収期間を設定して実施する。
- (3) 小学校第5、6学年及び中学校における「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて後日行うことを可能とする。ただし、できる限り速やかに実施する。

4 調査の内容

- (1) 実施教科・時間・順序については、表1、2のとおりとする。

<表1>

数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時		
		国語	算数	社会	理科		
小学校	第1学年						30
	第2学年						
	第3学年	20	20				
	第4学年	20	20				
	第5学年	40	40	40	40		
	第6学年	40	40	40	40		

＜表 2＞

数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序 ※					「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	30
中学校	第1学年	国語	数学	理科	グローバル・スタディ (英語)	社会	
		50	50	50	50	50	
	第2学年	国語	数学	グローバル・スタディ (英語)	社会	理科	
		50	50	50	50	50	
	第3学年	国語	数学	社会	理科	英語	
		50	50	50	50	50	

※ 第1、第2学年のグローバル・スタディ（英語）及び第3学年の英語の調査は、リスニングテストを含むため、学年により実施順序を変えることとする。

(2) 調査事項

ア 「学力に関する調査」

(ア) 小学校第3学年から中学校第2学年までの出題範囲は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムに示された年間指導計画例を基本として、当該学年の11月までの指導事項を原則とする。

(イ) 出題の内容は、これまでの「さいたま市学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の課題に関わる内容を含め、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 当該学年及び前学年までの知識・技能等を中心とした出題（基礎問題）
- ② 当該学年及び前学年までの知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する出題（活用問題）
- ③ 課題解決に向けて思考し、判断する力、表現する力等に関わる内容の出題（チャレンジ問題）

(ウ) 出題の形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(エ) 中学校第3学年については、「平成29年度 さいたま市学力検査実施要項」及び「平成29年度 さいたま市学力検査問題作成要領」に基づく。

イ 「生活習慣等に関する調査」

(ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、調査する。ただし、個人の思想や信条等に踏み込んだ質問項目は設定しない。

(イ) 調査に要する時間は表1、2に示した時間を原則とするが、各学校・各学年の状況に応じて適切な時間を充てるものとする。

(3) 「さいたま市小・中一貫教育」に基づき、各教科において指導事項の定着状況を把握するために、複数学年で同一あるいは類似の問題を出題している。社会科については、以下の表のとおりである。

調査問題の概要	出題した学年と問題番号	備考
八方位に関する問題	小5[1] (1)、小6[1] (1)、中1[2] (2) ②	類似問題
地図記号の理解に関する問題	小5[1] (2)、小6[1] (2)	同一問題
方位と地図記号を活用する問題	小5[1] (3)、小6[1] (3)、中1[1] (1)	類似問題
地球儀を基にした世界の地域構成に関する問題	中1[2] (4)、中2[1] (3)	類似問題
西暦と世紀の関係に関する問題	中1[4] (2)、中2[5] (2)	類似問題

Ⅱ 調査結果と

特徴的な問題の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の正答率を示しています。

3 特徴的な問題と解説

平成29年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	1	本問題は、平成26年度から市調査において、継続して課題がみられた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題であり、平成28年度の調査では【小5】（正答率1（2）39.5%（4）65.3%）【小6】（正答率1（2）42.0%（4）68.1%）であった。今回は、地図自体を少し変更し、文章で書かれた道順を地図上に線で表すことができるかをみる内容で、課題の改善状況を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
災害の防止	2	本問題は、平成28年度市調査【小5】で課題がみられた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関する問題である。今回は、関係諸機関が相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを資料から読み取ったり、火災の発生時に対する備えをしていることを考えて記述したりすることができるかどうかをみる問題を出題している。
国土 我が国の	3	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率3（2）55.9%）において課題とされた「赤道についての理解」を含む世界の主な大陸と海洋、我が国の位置と領土に関する問題である。今回は、地図から我が国の位置を世界の広がりの中で表したり、赤道について正しく理解したりしているかどうかをみる類似の問題を出題している。
我が国の国土	4	本問題は、平成27年度市調査【小5】（正答率4（4）43.3%）平成28年度市調査【小5】（正答率4（2）77.0%）において改善傾向がみられる、複数の地域の気温と降水量のグラフ（雨温図）を、比較しながら特徴を正しく読み取ることができるかどうかをみる問題である。平成27年度と平成28年度は類題であったが、今回は経年変化をみるために平成28年度と同一の問題を出題している。なお、雨温図を読み取る問題は、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、中1、中2でも出題している。
人々のくらし 自然条件と	5	本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫について分類・整理したり、2つの地域にみられる人々の工夫を関連付けたりしながら、共通点を考えることができるかどうかをみる問題を出題している。
農業	6	本問題は、平成27年度市調査において課題とされた「資料から必要な情報を読み取る技能」に関する問題である。今回は、米づくりカレンダーから必要な情報を読み取るとともに、どのように米づくりが行われているかを正しく理解しているかどうかをみる問題を出題している。
水産業	7	本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、資料から日本の漁業の特色や水産資源の保護、育成を図るための工夫や努力を読み取ることができるかどうかをみる問題を出題している。
食料生産	8	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率7（2）43.1%）において課題とされた「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。今回は、経年比較するために食料生産に関する問題点をグラフから読み取る問題についての同一の問題や、食料自給率を高めるための具体的な方法を選ぶことができるかどうかをみる類似の問題を出題している。
工業生産	9	本問題は、平成28年度市調査【小5】（正答率8（1）37.5%（2）66.5%）において課題とされた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関する問題である。今回は、日本の工業生産の様子の変化の特徴を読み取ることができるかどうか、自動車の輸送にかかる費用と輸送方法を関連付けて、海上輸送が活用される理由を考えることができるかどうかをみる問題を出題している。

本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成24年度全国調査	平成24年度 小学校学習指導要領実施状況調査 社会※抽出調査
平成〇年度市調査【小〇】	平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇社会

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	選択式・記述式・短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	八方位（北西）を理解している。	○					○	短	70.6	2.6	H28市【小5】【小6】	74.0 73.3	小6 中1	69.9 75.6
1(2)	消防署の地図記号を理解している。	○					○	選	88.9	0.6	H28市【小5】【小6】	39.5 42.0	小6	89.5
1(3)	方位や地図記号を活用することができる。		○	○		○		記	76.7	6.7	H28市【小5】【小6】	65.3 68.1	小6 中1	82.7 47.6
2(1)	火事が起きた時の連絡の仕組みについて資料を読み取ることができる。	○				○		選	95.2	0.5				
2(2)	資料を基に、消火栓が道路沿いにある理由を考えることができる。		○	○	○			記	69.0	4.2				
3(1)	ユーラシア大陸の位置と名称を理解している。	○					○	選	74.7	0.6				
3(2)	赤道について理解している。	○					○	選	81.3	1.8	H28市【小5】	55.9		
4(1)	福島県の名称と位置を理解している。	○		○			○	選	77.3	3.8	◎H28市【小5】	77.7		
4(2)	日本の各地の気候の特徴を示す複数の雨温図を、正しく読み取ることができる。	○				○		選	82.0	0.8	◎H28市【小5】	77.0		
5(1)	自然条件に適応しながら生活している暖かい地域の人々の工夫を分類・整理することができる。	○			○			選	90.0	0.4				
5(2)	寒い地域で生活している人々の工夫と暖かい地域で生活している人々の工夫の共通点を考えることができる。		○		○			選	86.1	0.6				
6(1)	米づくりカレンダーを正しく読み取ることができる。	○				○		選	79.4	0.7				
6(2)	米づくりの作業過程を理解している。	○				○	○	選	74.2	0.6				
7(1)	養殖業が盛んなところと栽培漁業の研究所の分布図を読み取ることができる。	○				○		選	68.9	1.0				
7(2)	二つの資料から、水産資源を保護、育成するための工夫について具体的に考えることができる。		○	○	○			記	71.2	7.8				
8(1)	グラフから、日本の主な食料自給率が低いものを読み取ることができる。	○				○		短	95.5	1.3	◎H28市【小5】	90.7		
8(2)	グラフから、穀物の自給率が低く、輸入に頼っている国を読み取ることができる。	○				○		選	43.9	0.9	◎H28市【小5】	43.1		
8(3)	我が国の食料自給率を上げるための取組を考えることができる。	○			○			選	41.7	1.2	H28市【小5】	70.2		
9(1)	日本の工業生産額の変化のグラフを正しく読み取ることができる。	○				○		選	52.8	1.6				
9(2)	二つの資料から、自動車の輸送にかかる費用と輸送方法を関連付けて考えることができる。		○	○	○			記	65.7	5.6				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 我が国の国土の環境

【特徴的な問題】

- ⑤ (2) 下の1～4は北海道の人たちのくらしのくふうです。沖縄県の人たちの「台風や暑さをしのぐくふう」に当たるものを、次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

第5学年 4月 教科書上「自然条件と人々のくらし」

出題の趣旨

本問題は、平成24年度全国調査及び平成24年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、気候条件から特色ある地域についての既習を基に、応用として未履修の地域を取り上げ、2つの地域の人々の工夫を関連付けながら、共通点を考えることができるかどうかをみる問題を出题している。なお、今回は、気候条件から特色ある地域として、「あたたかい地域のくらし」を選択して学習をしたという設定で問題を構成している。

指導のポイント (因子④ アクティブ・ラーニング)

○ 新たな社会的事象に出合った際に、既習を生かした問題意識をもたせる

児童が、日常生活で寒さの厳しい北海道のくらしの様子に出合ったときに、既習のあたたかい気候の沖縄県の学習を想起し、社会的な見方ができる児童を育成したい。そのために、日頃の社会科授業において、既習の学習内容と比較する場面を意図的に設定することが大切である。

○ 既習内容を活用し、新たに調べたことを表で分類・整理する

調べたことについて観点を明確にし、表で分類・整理することで、いくつかの事柄を比較して考えることができ、相違点が明らかになるだけでなく、共通点や似ている点が見付けやすくなる。

教師は、学習課題の答えを導き出せるよう、児童の気づきから、切り返しをしたり、板書の中で視覚的に表したりするとよい。

学習課題

沖縄県の人々は、気候を生かしてどのようにくらししているのだろう。

北海道の人々と沖縄県の人々のくらしの様子で似ているところはどこだろう。

台風の被害や暑さをしのぐために、住まいを工夫しています。…①

暖かい気候を生かした農業がさかんです。…②

あたたかい気候（沖縄県）		寒さの厳しい気候（北海道）
・1年中あたたかい。 ・美しい海。 ・台風がくることが多い。	自然	・1年中すすしい。 ・広々とした自然。 ・大雪にみまわれる。
・台風の強風にたえられるよう、家はコンクリートづくり。 ・風通しをよくしてすすしくするために、戸や窓が大きい。	生活	・冬の寒さをしのぐために、戸や窓を二重にしている。 ・大雪にそなえた、平らな屋根や急な屋根。
・きくの栽培。 ・さとうきびの栽培。	農業	・酪農がさかん。 ・じゃがいもの栽培。

○教師の手立て

- ・それぞれの特色を項目別に表にまとめる。
- ・既習の沖縄県の人々が気候を生かしてどのようにくらししているか児童の発言を基に関連付け、矢印でつないで板書をする。
- ・北海道についても同様に考えさせる。
- ・共通点を考える。

沖縄県の人たちも北海道の人たちも、自然環境を生かして工夫をしてくらししている。

このように、沖縄県の学習で身に付けた見方を生かすと、北海道の人々も自然環境に適応しながら生活していることをとらえることができる。既習の学習内容と比較しながら、新しい社会的事象について汎用的に考えられる子どもを育てたい。

小学校第5学年 工業生産

【特徴的な問題】

- ⑨ (2) さとしさんたちは、**資料2**と**資料3**をもとに、自動車の輸出方法について調べて考えたことを話し合いました。次の の中にある二つの言葉を使って、下のふき出しに入る文を完成させましょう。

輸送 費用

第5学年 9月 教科書上「自動車づくりにはげむ人々」等

出題の趣旨

本問題は、平成28年度さいたま市学習状況調査【小5】において課題とされた「社会的事象の目的や意味を考えられる」ことに関する問題である。今回の問題では、資料から、自動車の輸送には、専用船が使用され海上輸送が行われていることや、自動車の価格には、製造から販売までの過程で、様々な費用が価格に影響を与えていることを読み取る。そして、自動車の輸送には海上輸送が活用される理由を考えることができるかどうかをみる問題である。

指導のポイント (因子④ アクティブ・ラーニング)

学習課題 自動車の輸送のしかたのくふうは、どのようになっているのだろう。

① 必要な知識を、資料から読み取らせる



それぞれの資料からどんなことが分かりますか。

例えば、どのような費用が自動車の価格に含まれていますか。

社会的事象の目的や意味を考えるために必要な知識を、資料から読み取らせる。本問題の場合は、自動車の価格には、どのような費用が含まれているか確認する。

資料から読み取る

資料2から、たくさんの自動車を輸送するために、専用の船が使われていることが分かります。



資料3から、自動車の価格には、いろいろなものが含まれていることが分かります。

材料費や部品費、輸送費です。

② 読み取った知識を関連付ける



なぜ専用船を使って、自動車を運んでいるのだろう。

運び方と価格には、どのような関係がありますか。

社会的事象の意味や、読み取った知識の関係性を考えさせる発問をする。本問題の場合は、専用船を活用する理由や、価格に関連させながら専用船を活用するよさについて考えさせる発問をする。

社会的事象の目的や意味を考える

専用船は、何台運んでも、かかる費用は変わらないから、一度にたくさん運んでいるのだと思います。

何台運んでも費用は変わらないなら、一度にたくさん運んだ方が、一台にかかる費用が安くなります。



③ 考えた目的や意味を表現させる

まとめ

専用船は、1回の輸送で、たくさんの自動車を運ぶことができる。だから、1台にかかる輸送費を安くすることができる。自動車の輸送は、それぞれの方法の長所を生かして、くふうされている。

ii 小学校第 6 学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 身近な地域や市	本問題は、平成 26 年度から市調査において、継続して課題がみられた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題であり、平成 28 年度の調査では【小5】（正答率①（2）39.5%（4）65.3%）【小6】（正答率①（2）42.0%（4）68.1%）であった。今回は、地図自体を少し変更し、文章で書かれた道順を地図上に線で表すことができるかをみる内容で、課題の改善状況を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
② 県の様子	本問題は、平成 24 年度からの市調査において、継続して課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題であり、平成 24 年度全国調査において課題とされた「情報を総合して社会的事象の目的を考え、指定された用語を使って表現できる」かどうかをみる問題と類似の問題である。今回は、地域資源の一つである「伝統的な街並み」の保護・活用の目的を問う内容について、指定された用語を用いて表現できるかどうかについて経年比較するために、前年度と同一の問題を出題している。
③ 我が国の国土	本問題は、平成 27 年度市調査【小5】（正答率③（2）58.8%）平成 28 年度市調査【小5】（正答率③（2）55.9%）において課題とされた、「赤道についての理解」を含む「世界の主な大陸や海洋」に関し、世界地図を活用して、世界の大陸や海洋、主な国の名称と位置や我が国との位置関係を理解しているかどうかをみる問題である。今回は課題の改善状況を把握するために前年度【小5】と同一の問題も出題している。
④ 情報化された社会	本問題は、平成 28 年度市調査【小5】（正答率⑥（3）41.7%）において課題とされた「指定された用語を用いて社会的事象の関係を文章で表現すること」に関する問題である。今回は、病院と図書館で利用されている情報ネットワークの特色についてベン図を用いて分類したり、それらを関連付けながら共通点を考え指定された用語を用いて表現したりできるかどうかをみる問題を出題している。
⑤ 自然災害の防止	本問題は、平成 25 年度市調査【小5】より継続して課題とされている「資料から必要な情報を読み取る力」に関する問題である。今回は、地震や津波、風水害、土砂災害、雪害などの様々な自然災害による被害を防止するために国や都道府県が様々な対策や事業をしていることを複数の資料から読み取ることができるかどうか経年比較をするために前年度と同一の問題を出題している。
⑥ 狩猟・採集や農耕の生活	本問題は、平成 28 年度市調査【小6】（正答率⑤（1）64.9%（2）65.1%）で課題がみられた基本的な知識・理解に関する問題である。今回は、貝塚や集落跡等の遺跡の遺物を取り上げ、狩猟や採集の生活が営まれていたことや米づくりが始まったことによる人々のくらしの変化について理解しているかどうかをみる問題を出題している。なお、経年比較をするために、前年度と類似の問題を出題している。
⑦ 貴族の生活	本問題は平成 28 年度市調査において課題とされた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関し、「観点に基づいて、社会的事象を分類・総合するという思考力」についての問題である。今回は、貴族の生活（想像図）を基に貴族がどのような生活をしていったのかを調べ、付箋に分類しまとめる力があるかをみたり、日本風の文化について、活躍した人物の名前と業績を理解しているかをみたりする問題である。
⑧ 全国統一	本問題は、織田信長及びザビエルの業績の理解に関する問題である。今回は長篠の戦いを取り上げ、織田信長が戦い方を工夫したことを理解しているかどうかをみる問題を出題している。なお、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から平成 28 年度市調査【中2】（正答率⑤（5）62.6%）において出題された近世のヨーロッパ人來航の影響についてと同様の基本的な知識・理解に関する問題である。
⑨ 日本国憲法の発布	本問題は、「平成 29 年度さいたま市の学校教育 推進の指針・指導の努力点 21 主権者教育」で挙げられている「必要な知識」に関する問題である。我が国の民主政治は日本国憲法によって実現されていることや、戦後さらに選挙権が拡大され、当時 20 歳以上の全ての男女に保障されたことについて理解しているかどうかをみる問題を出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	知識・理解	選択式・記述式・短記式	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1(1)	八方位（北西）を理解している。	○					○	短	69.9	2.0	H28市【小5】【小6】	74.0 73.3	小5 中1	70.6 75.6
1(2)	消防署の地図記号を理解している。	○					○	選	89.5	0.3	H28市【小5】【小6】	39.5 42.0	小5	88.9
1(3)	方位や地図記号を活用することができる。		○	○		○		記	82.7	2.1	H28市【小5】【小6】	65.3 68.1	小5 中1	76.7 47.6
2(1)	新潟県の名称と位置を理解している。	○		○			○	選	86.2	3.1	◎H28市【小6】	84.2		
2(2)	様々な資料の情報をまとめて、地域資源の保護・活用の目的を考え、指定された用語を使って表現することができる。		○	○	○			記	74.2	3.0	◎H28市【小6】	70.8		
3(1)	世界地図を活用して、我が国の位置について大陸と海洋、方位を使って示す方法を理解している。	○				○	○	選	88.3	0.4	◎H28市【小5】	80.8		
3(2)	赤道について理解している。	○					○	短	69.6	5.8	◎H28市【小5】	55.9		
3(3)	ブラジルの国旗と位置を理解している。	○					○	選	67.6	0.5				
4(1)	資料から、図書館で利用される情報ネットワークの特色について考えることができる。	○			○	○		選	88.1	0.9				
4(2)	図書館や病院で利用されている情報ネットワークの共通点を考え、指定された用語を使って表現することができる。		○	○	○			記	70.9	3.5				
5(1)	津波、風水害による被害を少なくするために国や都道府県が様々な対策を取っていることを理解している。	○					○	選	96.0	0.3	◎H28市【小6】	95.3		
5(2)	複数の資料から、自然災害による被害を少なくするために国や都道府県が行っている様々な対策や事業を読み取ることができる。		○			○		選	84.9	0.4	◎H28市【小6】	85.3		
6(1)	縄文時代の遺跡から出土したものを基に、当時の人々のくらしを理解している。	○					○	選	62.6	0.3				
6(2)	米づくりが始まり、人々のくらしがどのように変化したのか理解している。	○			○		○	選	64.4	0.4	◎H28市【小6】	65.1		
7(1)	貴族の生活について分類・整理した資料から、貴族の生活について考えることができる。	○		○	○			選	88.9	0.5				
7(2)	日本風の文化を代表する源氏物語を書いた人物（紫式部）の名前と業績を理解している。	○					○	選	73.5	0.6				
8(1)	織田信長の業績について理解している。	○					○	選	67.5	0.6				
8(2)	ザビエルの名前と業績を理解している。	○					○	短	81.0	4.4				
9(1)	戦後、選挙権がさらに拡大され、当時20歳以上全ての男女に保障されたことを理解している。	○					○	選	56.4	0.8				
9(2)	戦後我が国は日本国憲法を制定し、民主的な国家として出発したことを理解している。	○					○	選	58.0	0.9				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を問題として出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 情報化した社会の様子

【特徴的な問題】

- 4 (2) さとしさんは、図1の付せん【イ】に当たる図書館や病院で利用されている情報ネットワークの共通点について話しています。次の [] の中にある二つの言葉を使って、下のふき出しの文を完成させましょう。

やりとり 必要

第5学年 1月 教科書下「広がる情報ネットワーク」

出題の趣旨

本問題は、「平成28年度さいたま市学習状況調査」において、平均正答率が41.7%と課題がみられた「指定された用語を用いて社会的事象の関係を文章で表現すること」に関する「観点に基づいて、社会的事象を分類・整理するという思考力・判断力」についての問題である。思考ツールの一つである「ベン図」は、資料から見いだした社会的事象について個人やグループで考えを分類・整理する上で効果的である。今回は、病院と図書館で利用されている情報ネットワークの特色について付箋に書き出し、分類したことを基に関連付けながら共通点を考えることができるかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント (因子④アクティブ・ラーニング)

○課題解決に向け、資料から情報を取り出す場面を設定する

どちらのネットワークにも共通することは何だろう。

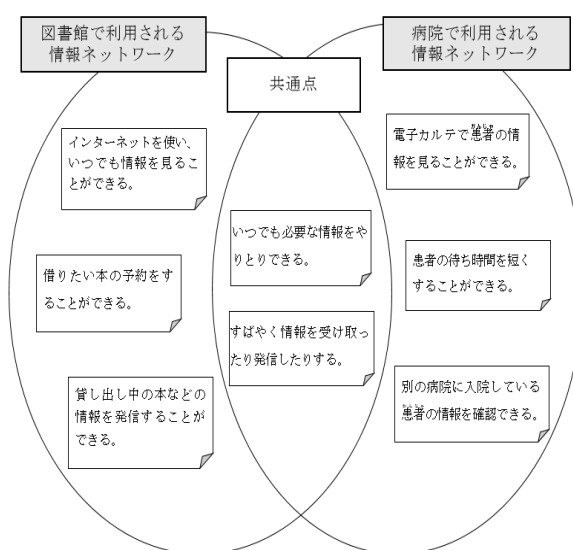


	資料に印を付ける・ノートに書き出す	付箋に書き出す
長所	○準備の必要があまりなく、短時間で活動することができる。	○自由に貼ったりはがしたりすることで、順位付けや分類をすることができる。 ○思考操作がしやすいので、 <u>共通点を見付けやすい</u> 。 ○思考力・判断力・表現力を育てやすい。
短所	△思考操作にはあまり向いていないため、 <u>比較はできるが、共通点が見だしにくい</u> 。	△ねらいを明確にしないと、付箋に書く「作業」で終わってしまう。 △慣れていないと時間がかかる。



ここでは付箋に書き出す学習活動を想定する。

○課題解決に向け、取り出した情報について、ベン図を用いて分類させる



ベン図を用いた言語活動

- ① 本時の課題を確認する。
- ② 各自で考え、問題解決に向け、読み取った情報を付箋に書き出す。
- ③ グループごとにベン図を用意し、自分の書いた付箋を発表しながら貼る。
- ④ 利用者とは誰のことをさすのか、定義を全体で確認する。
- ⑤ ③の中から共通点に当てはまる付箋をベン図の中央に整理・分析し、貼る。
 - ・共通点に関するキーワードを確認する。
 - ・キーワードが難しい場合は、「利用者にとってどのようなよさがあるか。」などの補助発問をする。
 - ・新たに出てきた意見を付け足すように指示する。
- ⑥ キーワードを用いて文にまとめる。(やりとり・必要・すぐに・すばやく など)



病院も図書館のどちらも、必要な情報をすばやくやりとりすることで、生活が便利になっているな。

小学校第6学年 貴族の生活

【特徴的な問題】

- 7 (1) **資料2**を見て、学習課題「貴族は、どのような生活をしていたのだろう。」についてまとめました。適切なものを次の1～4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。
- 1 周りをほりに囲まれた館に住み、戦いに備えて、日ごろから武芸にはげんでいた。
 - 2 広い屋しきに住み、和歌を楽しんだり、季節ごとの行事や儀式などを行ったりした。
 - 3 洋服を着たり、牛肉やパンを食べたりするなど、西洋風の暮らしが広がった。
 - 4 税として稲や地方の特産物を納めたり、遠くはなれた都の工事で働いたりしていた。

第6学年 5月 教科書上「大陸に学んだ国づくり」

出題の趣旨

本問題は、平成28年度市調査において課題とされた「社会的事象の目的や意味を考えること」に関し、資料から読み取った社会的事象を「観点に基づいて、分類・総合する思考力」についての問題である。今回は、貴族の生活（想像図）を基に貴族がどのような生活をしていたのかを調べ、分かったことを付箋に書き出して分類する学習活動を想定している。分類したものを基に総合し、学習課題の答えとなるまとめを考えることができるかどうかをみるために出題している。

指導のポイント（因子④アクティブ・ラーニング）

○観点に基づいて資料を読み取り、調べたことを分類し考えたことを表現する指導を充実させる

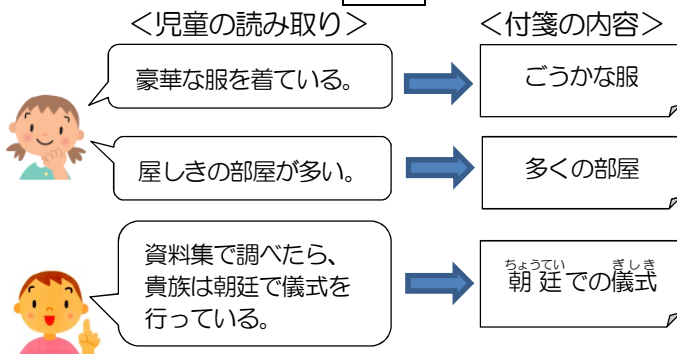
（1）観点に基づく資料の読み取りをする

【児童の活動】

学習課題

貴族は、どのような暮らしをしていたのだろう。

資料の読み取り（個人）… **資料1**より



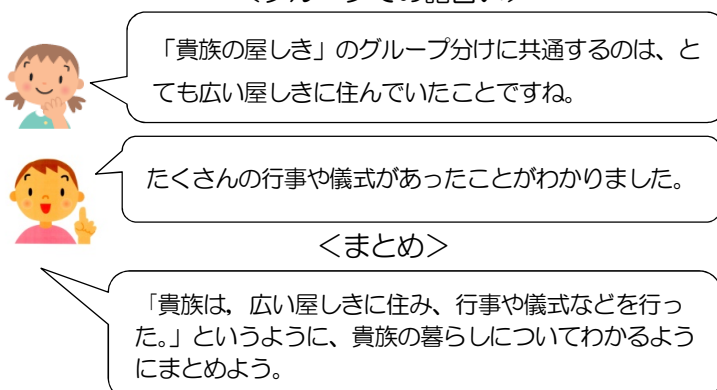
【指導上の留意点】

学習課題が調べる観点となる。資料から「暮らし」に関して分かる部分を書き出させる。

資料1から、個人で気付いたことを付箋に書き出させる。この資料以外にも教科書や資料集を活用させ、情報を集めさせる。分かったことは付箋に簡潔にまとめるよう指示する。

（2）読み取ったものを**資料2**のように分類し、学習課題のまとめを考える

＜グループでの話し合い＞



個人で読み取ったものをグループで持ち寄り、分類させる。付箋を使用すると操作がしやすいため、様々な分類が考えられる。付箋などの思考ツールを使う際は、活動だけで終わらないよう、最後に言葉でしっかり表現させることが大切である。

また、グループで話し合ったことはノートに記すなど、「学びの足あと」を残すことも大切である。

iii 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 小学校の復習	本問題は、小学校での既習事項の復習のうち、平成28年度市調査【中1】（正答率①（1）44.9%）において課題がみられた「方位と地図記号を基に、地図を読み取ること」、また、平成27年度市調査【中1】（正答率①（7）36.7%①（8）31.9%）で課題がみられた明治期以降の歴史上の人物と業績についての理解、「日本国憲法の原則についての理解」に関する問題である。今回は、小学校で扱った学習内容から上記のように過去の市調査で課題がみられた問題や、中学校で扱う学習内容の基礎となる部分を中心に出題した。なお、既習事項の復習という視点を踏まえて、①（1）及び（2）では、平成28年度市調査【小6】、平成27年度市調査【小5】で扱った資料を改編して出題している。
② 世界の地域構成	本問題は、平成27年度市調査【中1】（正答率②（5）48.3%）及び平成28年度市調査【中1】（正答率②（5）53.9%）において継続して課題がみられた「目的に応じて様々な地図や地球儀を活用すること」や、「地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けること」、また、平成27年度市調査【中1】（正答率②（6）44.5%）及び平成28年度市調査【中1】（正答率②（6）36.9%）において継続して課題がみられた「地図上のある地点について緯度と経度を使って表すこと」に関する問題である。今回は、経年比較の問題として出題した様々な図法で描かれた世界地図を基に、地図の特徴や本初子午線の位置を問う問題、大陸の名称や地図の見方についての知識を問う問題を出題している。
③ 生活と環境 世界各地の人々の	本問題は、平成28年度市調査【中1】（正答率③（2）61.8%）において課題がみられた「複数の資料を基に、世界各地の気候について説明すること」に関する問題である。今回は、乾燥帯の気候の特色と、その地域の人々の生活の様子（住居）を関連付けて説明する問題のほか、地図を基に、北半球の温帯の特色を示す雨温図を選択する問題、冷帯の植生について理解しているかを問う問題、世界の宗教と人々の生活や文化について問う問題などを出題している。
④ 歴史のとらえ方	本問題は、平成27年度市調査【中1】（正答率④（4）49.4%）及び平成28年度市調査【中1】（正答率④（2）38.0%）において継続して課題がみられた「西暦と世紀の関係や年号についての理解」、平成28年度市調査【中1】（正答率④（3）61.4%）において課題がみられた「資料に関連する時代名の理解」に関する問題である。今回は、略年表と小学校で扱った歴史上の資料や人物・できごとを基に、時代の名称や区分の方法、大まかな時代の特徴の理解を問う問題など基礎的・基本的な知識の定着が図られているかをみるために出題している。
⑤ 古代までの日本	本問題は、平成28年度市調査【中1】（正答率⑤（1）53.1%）において課題がみられた「各時代の特色をとらえ、歴史の大きな流れを理解すること」を受け、人物や文化財に関する4枚のカードを基に設定した問題である。今回は、我が国の原始から古代までの政治や文化の特色、大陸との関わり、人々の暮らしや生活の変化について出題している。また、平安時代の摂関政治の展開については、資料を基に説明する記述問題を出題している。

本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成○年度市調査【中○】	平成○年度 さいたま市学習状況調査 中○社会

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点			問題形式		市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的な思考・判断・表現	資料活用	知識・理解	選択式・記述式・短答式	記述式・短答式	平均正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	平均正答率（％）	出題学年	平均正答率（％）
1(1)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○		○	○	○	選		47.6	0.4	H28市【中1】	44.9	小5 小6	76.7 82.7
1(2)	複数の資料から、都道府県別の米の収穫量について正しく読み取ることができる。	○		○		○	選		61.7	0.5				
1(3)	埼玉県に接する都県（山梨県）の名称と位置を理解している。	○			○	○	短		56.2	10.3				
1(4)	江戸時代末期～明治期に活躍した人物の業績について理解している。	○				○	選		83.0	0.3	H27市【中1】	36.7		
1(5)	日本国憲法の3つの原則について理解している。	○				○	短		18.6	18.0	H27市【中1】	31.9		
2(1)	地図上の本初子午線の位置を理解している。	○				○	選		73.3	0.4	◎H28市【中1】	74.8		
2(2)①	正距方位図法の見方、世界の大陸の名称と位置、方位に関する知識を身に付けている。	○		○		○	短		54.5	3.0				
2(2)②	正距方位図法の見方、方位に関する知識を身に付けている。	○		○		○	選		75.6	0.7	H27【中1】 H28【中1】	68.9 67.6	小5 小6	70.6 69.9
2(3)	モルワイデ図法の特徴を理解している。	○				○	選		48.9	0.5	◎H27市【中1】	48.3		
2(4)	地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けている。		○		○	○	選		59.5	0.4	◎H28【中1】	53.9	中2	48.6
2(5)	地図上にある地点を、緯度と経度を使って表すことができる。	○		○	○	○	選		62.0	0.6	H27【中1】 H28【中1】	44.5 36.9		
3(1)	北半球の温帯の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○			○	○	選		87.0	0.5	H28【中1】 【中2】	80.3 55.6		
3(2)	冷帯でみられるタイガについて理解している。	○				○	選		82.9	0.6				
3(3)	複数の資料を基に、乾燥帯の気候の特色と、その地域の人々の生活の様子を関連付けて説明することができる。		○	○		○	記		70.8	10.3	H28【中1】	63.6		
3(4)	世界の宗教と人々の生活や文化の関わりについて理解している。	○				○	選		49.7	0.9				
4(1)	資料を見て、関連する時代の名称を理解している。	○				○	短		83.8	5.4	◎H27市 ◎H28市【中1】	81.2 83.0		
4(2)	西暦と世紀の関係や、年号（元号）について理解している。	○				○	選		47.2	2.9	H27【中1】 H28【中1】	49.4 38.0	中2	56.1
4(3)	資料を見て、関連する時代についての知識を身に付けている。	○				○	選		65.3	4.3				
5(1)	原始から古代の歴史的事象を、年代の古い順に並べることができる。	○		○		○	選		78.7	0.7	H27【中2】 H28【中1】	63.1 53.1		
5(2)	卑弥呼が治めたとされる邪馬台国について理解している。	○				○	短		35.7	13.4				
5(3)	むらや小さな国がつくられた頃の文化財について理解している。	○				○	選		27.5	1.2	H28市【中1】	80.4		
5(4)	大陸の文物や制度を日本に取り入れた遣唐使について理解している。	○				○	短		33.3	12.6				
5(5)	聖徳太子によって整えられた政治制度について理解している。	○				○	選		92.3	0.9				
5(6)	資料を見て、藤原氏がどのように勢力をのばしていったかを説明することができる。		○	○		○	記		35.0	8.5				
5(7)	平等院鳳凰堂がつくられた頃の政治の特色について理解している。	○				○	選		43.6	1.7				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と平均正答率を示している。

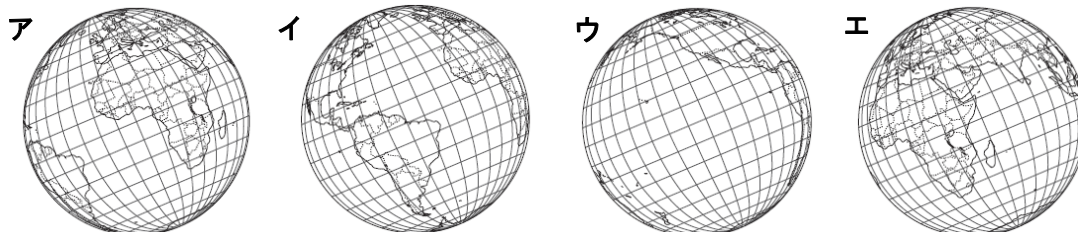
★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「世界の地域構成」

【特徴的な問題】

- ② (4) 次の地図4は、地球儀をみて作成した略地図です。地図4を反対側からみた略地図として正しいものを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。



(注) 地図4は省略

第1学年 地理「世界の姿」

出題の趣旨

本問題は、平成28年度市調査において課題がみられた「目的に応じた様々な地図を活用すること」に関する問題であり、経年比較の問題として出題している。平成28年度市調査と同様に、地球儀を基に作成した略地図を提示し、世界の地域構成を大観させるために必要とされる、地球儀や世界地図の活用に関する基礎的な知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題として出題している。

指導のポイント (因子① 授業マネジメント、因子② 基礎アップ)

- 体験的な活動を通して、大陸や世界の国々の球面上の位置関係をとらえさせる
地球儀を使った体験的な授業展開の例としては、次のような内容が挙げられる。

＜例＞地球儀を活用した授業展開

- ・地球儀から大陸や海洋、世界の国々を探し、位置を確認する。
- ・地球儀を使い、陸半球と水半球を図に描く。
- ・地球儀の日本の位置に十字に貼ったテープを当て、東西方向へ進むとどこの国に到達するかを調べ、世界地図と比較する。
- ・地球儀と世界地図で、ある陸地（グリーンランドなど）の形や面積の違いを把握する。
- ・地球儀を回転させ、昼夜の変化や北半球と南半球の季節の違いを実感する。

また、世界地図の活用については、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など、目的に応じた様々な地図を取り上げ、それらの特色に留意して読み取りを行わせることなどが考えられる。このような学習活動を通して、地球儀や地図の適切な活用の仕方を身に付けさせることが大切である。そのためには、日常的に地球儀や世界地図に親しむことのできる学習環境を整えることが必要である。

- 意図的・計画的に、地図や地球儀を活用した学習活動の充実を図る

「世界の地域構成」の単元以降の学習でも、意図的・計画的に地図や地球儀を活用し、生徒の地理的技能の向上を図ることが大切である。例えば、「世界の諸地域」の「アジア諸国との結び付き」という主題を設定したオセアニア州の学習の際に、緯線と経線が直角に交わる地図よりも、地球儀を活用した方が、位置関係の把握には有効であると考えられる。

なぜ、オセアニア州の国々は、近年、国旗の一部にえがかれた国よりも、アジア諸国との結び付きの方が強くなったのだろう…。



中学校第1学年 「世界各地の人々の生活と環境」

【特徴的な問題】

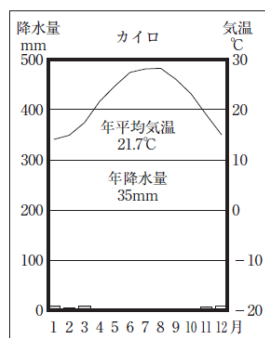
- ③ (3) 地図中の **カイロ** を含む地域では、次の資料1やピラミッドなどの歴史的建造物のように、^{ひほ}日干しレンガが使われることが多いです。その理由を、資料2の **カイロ** の気温と降水量のグラフを参考にして書きなさい。

資料1 日干しレンガを使用した住居



(注) 地図は省略

資料2 カイロの気温と降水量のグラフ



第1学年 地理
「世界各地の人々の生活と環境」

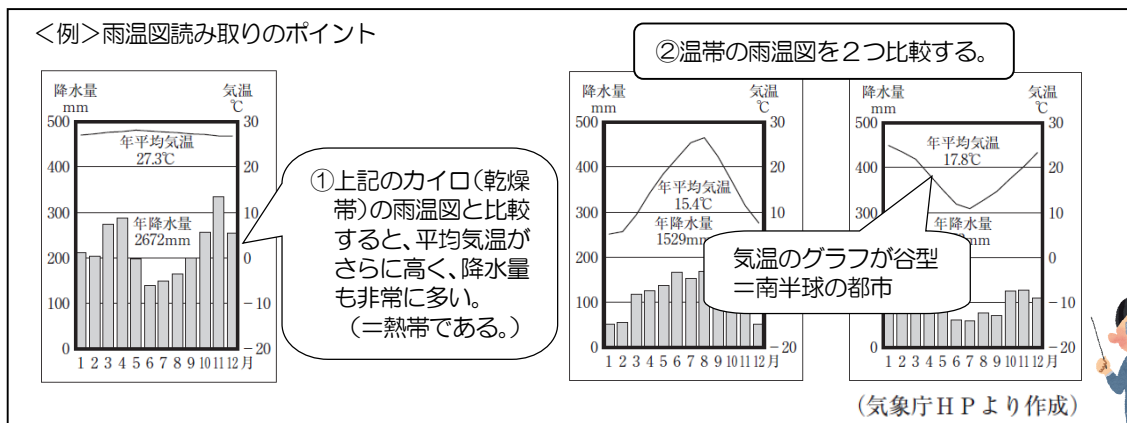
出題の趣旨

本問題は、平成28年度市調査において課題がみられた「複数の資料を基に、気候の特色を説明することができる」に関する問題である。今回は、カイロ付近で見られる住居の様子から、降水量が非常に少なく、日干しレンガが伝統的に用いられてきた乾燥帯の生活様式を説明する問題として出題している。

指導のポイント (因子② 基礎アップ、因子③ 授業スキル)

- 資料の読み取り方の視点を身に付けさせる

まず、地図や既習事項である世界の気候帯の分布図を引用して、カイロの位置と気候帯名を確認させる。それとともに、③(1)の気温と降水量のグラフから、カイロは年平均気温が高く、世界的にみても雨が少ない地域であることや、同じく気温が高い選択肢アが、降水量が多く日干しレンガを使うことはできない熱帯であることを把握させる。このように、降水量と気温の両方を確認しながら的確な説明ができるように指導していきたい。



- 気候の多様性を、様々な学習活動を通してとらえさせる

世界各地の人々の生活と環境を取り扱う際は、ICTを効果的に活用して、気温と降水量のグラフとともに、衣食住に関する特徴的な生活の様子が分かる資料を関連付けながらイメージできるようにしたい。世界各地の伝統衣装や、主食となる作物を確認するなど、特に、生徒の生活体験と結び付きやすい資料は有効である。そして、世界各地の気候の多様性や生活様式の違いを学習することが、日本の伝統的な生活様式を知る一助となるように指導していきたい。

中学校第1学年 「歴史のとりえ方」

【特徴的な問題】

- 4 (2) 略年表中のBについて説明した次の文の 、 に当てはまる語や数字の組み合わせとして正しいものを、下の表のA～Eの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

略年表中のBにある応仁の乱は、1467年に起こった戦乱です。1467年は を用いてあらわすと「応仁元年」となります。

また、略年表中のBにある応仁の乱が起こった1467年を、別の表し方で表すと、 世紀の中ごろということができます。

- (3) 次の人物P、人物Qは、歴史上の人物を表しています。この人物たちが話している内容を読み、この人物たちが活躍した時代名を、略年表から選んで書きなさい。

(注) 略年表等は省略

第1学年 歴史「歴史の流れをとらえよう」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査及び平成28年度市調査において継続して課題がみられた「西暦と世紀の関係や年号についての理解」に関する問題である。今回、4(2)では、西暦や世紀、年号といった年代の表し方が身に付いているかどうか、また、4(3)では、小学校で取り上げている歴史上の人物の業績を基に、各時代の大まかな特徴をとらえる力が身に付いているかをみる問題として出題している。

指導のポイント (因子① 授業マネジメント、因子② 基礎アップ)

- 小学校での既習事項を生かしつつ、西暦や世紀、年号の考え方や表し方を着実に理解させる

「歴史のとりえ方」は小学校での学習から中学校での学習への橋渡しをし、かつ中学校歴史的分野の学習全体の導入となる単元である。そのため、小学校の学習内容と西暦や世紀、年号の考え方や表し方が関連付けできるような授業展開、板書の工夫やオリジナル年表の作成などの活動を意図的に授業に盛り込むことが大切である。その際、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムで挙げられたテーマ年表作成の例を参考にしつつ、年表を有効に活用した授業などが考えられる。

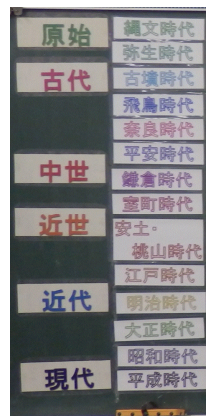


＜例＞「歴史のとりえ方」授業の板書

- 「歴史のとりえ方」以降の単元において西暦や世紀、年号の表し方を継続的・計画的に指導し、歴史の流れを大観する活動へとつなげる

本単元で学習する西暦や世紀、年号の表し方は、中学校で学習する歴史的事象の理解において必要とされる基礎的・基本的な知識・技能である。そのため、板書や発問の仕方に工夫を凝らして繰り返し学習し、着実な定着を図りたい。また、その後の学習においても、「よい授業」4つの因子の観点を踏まえ、毎時間の授業の導入部分で生徒どうしによる定着度を評価し合う学習活動なども有効である。このような活動は、生徒の学習意欲を高めることや、各時代の学習のまとめで実施する、その時代を大観し表現する活動の充実へとつながると考えられる。

＜例＞毎時間の導入として、マグネット式の時代区分カードを用意し、数名の生徒が並べ替えをする。



iv 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 世界の地域構成・世界各地の人々の生活と環境	本問題は、平成28年度市調査【中1】（正答率2（5）53.9%）において課題がみられた「地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けること」に関する問題である。今回は、本初子午線を基準とした略地図から、その反対側に位置する世界の地域構成に関する問題を出題している。また、世界の地理的認識を深める際の座標軸のような役割を果たす赤道について、地図上の位置に関する知識が定着しているかどうかをみる問題や、中1との経年比較の視点から雨温図の正しい読み取りに関する問題を出題している。
2 世界の諸地域	本問題は、平成27年度市調査【中2】（正答率2（4）33.4%）、平成28年度市調査【中2】（正答率2（2）25.4%）において継続して課題がみられた「複数の資料を関連付けたり、基礎的・基本的な知識や技能を活用したりして説明すること」に関する問題である。今回は、地図や資料を基に、ヨーロッパ州における政治・経済的統合とその課題を読み取る問題、アジア州における各国の成長と変化に関する問題、北アメリカ州における産業を支える人々に関する知識を問う問題、アフリカ州における貿易と人々の生活に関する課題に関する問題を出題している。
3 世界と比べた日本の地域構成・日本の地域的特色	本問題は、平成28年度市調査【中2】（正答率3（4）45.4%）において課題とされた「複数の資料を関連付けて読み取ること」に関する問題である。今回は、会話文と地図等の資料を基に、都道府県の位置、日本の自然環境、人口構成とその課題、産業についての基礎的・基本的な知識とともに、資料を読み取ったり、説明したりする力を問う問題などを出題している。また、平成28年度市調査【中2】（正答率3（5）42.3%）において課題がみられた「時差を求め、地図上の位置を選ぶ」問題に関しては、今回、時差を求めることに焦点化して出題している。なお、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、日本各地の気候に関する問題は、小5においても出題している。
4 古代までの日本・中世の日本・（近世の日本）	本問題は、平成27年度市調査【中2】（正答率5（3）19.5%）、平成28年度市調査【中2】（正答率4（5）39.2%）において継続して課題がみられた「中世の民衆の動き」や各時代の政治や文化等に関する問題である。今回は、各時代に活躍した歴史上の人物に関する4枚のカードを基に、主に古代から近世までの歴史に関する基礎的・基本的な事項に関する理解、歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力をみるために出題している。さらに、活躍した年代の古い順に並べ替える問題や、それぞれの時代の歴史的事象に関する展開や背景について、資料とともに考察する問題を出題している。
5 古代までの日本・中世の日本・（近世の日本）	本問題は、平成28年度市調査【中2】において課題がみられた「歴史的事象と関連のある場所を、地図上から選ぶこと」（正答率5（3）47.9%）、「その時代の文化の特徴と代表的な文化財の組み合わせを、正しく選択すること」（正答率5（4）37.5%）に関する問題である。今回は、古代から近世の日本の歴史に関する略年表を基に、政治の展開や社会の様子、文化の特色等について出題している。具体的には、「出島」の場所について問う問題、「江戸幕府の政治制度」について「参勤交代」の視点から資料を基に説明する問題を出題している。また、略年表を参考に年代や世紀の表し方を問う問題は、経年比較の問題として出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	社会的な思考・判断・表現	資料活用	知識・理解	選択・記述・短答式・選択・短記	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1 (1)	地図上の赤道の位置を理解している。	○				○	選	70.2	0.2	H28市【中2】	67.4		
1 (2)	ロンドンの気温と降水量を表すグラフについて、正しく読み取ることができる。	○			○	○	選	72.9	0.3				
1 (3)	地球儀を基に、世界の地域構成に関する知識を身に付けている。	○			○	○	選	48.6	0.3	H28【中1】	53.9	中1	59.5
2 (1)	複数の資料を基に、ヨーロッパ州内のEUにおける課題について説明することができる。	○		○		○	短	64.5	7.9				
2 (2)	アジア諸国の特色について理解している。					○	選	80.0	0.6				
2 (3)	ヒスパニックについて理解している。	○				○	短	25.3	28.5				
2 (4)	資料から、モノカルチャー経済の特色を読み取り、その課題について理解している。	○		○		○	選	76.1	1.6				
3 (1)①	都道府県の位置（鳥取県）を理解している。	○				○	選	91.8	0.7				
3 (1)②	資料を基に、日本の人口に関する課題について理解している。	○			○	○	短	86.3	1.8				
3 (2)	資料を基に、日本の河川の特徴を説明することができる。		○	○		○	記	78.9	3.9	◎H27市【中2】	71.4		
3 (3)	中央高地の気候の特色を理解し、その特色を示す雨温図を選ぶことができる。	○			○	○	選	43.7	0.8	H28市【中2】	49.2		
3 (4)	日本近海の流れに関する知識や資料を活用して、各漁港の水揚げを示したグラフを読み取ることができる。		○	○	○	○	選	63.1	1.2				
3 (5)	資料を基に、日本の商業の販売額の推移について読み取ることができる。	○		○		○	選	57.6	0.7				
3 (6)	地図を基に、日本とサンパウロとの時差を求めることができる。		○		○	○	選	47.2	1.1	H28市【中2】	42.3		
4 (1)	資料を基に、古代から近世に活躍した人物を年代の古い順に並べ替えることができる。	○		○		○	選	70.0	0.7	H28市【中2】	63.3		
4 (2)	天平文化の代表的な文化財を理解している。	○				○	選	73.8	0.6				
4 (3)	徳川吉宗が行った享保の改革について理解している。	○		○		○	選	45.6	0.8	◎H28市【中2】	40.6		
4 (4)	資料を基に、豊臣秀吉が行った政策について理解している。	○				○	短	71.6	10.0				
4 (5)	室町時代の民衆の生活の様子を理解している。	○		○		○	選	40.5	1.1	◎H28市【中2】	39.2		
5 (1)	中世という時代区分を理解している。	○				○	選	47.3	0.9	◎H27市 ◎H28市【中2】	48.9 56.6		
5 (2)	西暦と世紀の関係について理解している。	○				○	短	56.1	4.5	H28市【中2】	57.3	中1	47.2
5 (3)	六波羅探題が置かれるきっかけとなった出来事について理解している。	○				○	短	18.5	21.6				
5 (4)	桃山文化の特徴とその時代の代表的な文化財の組み合わせを、正しく選択することができる。	○		○	○	○	選	54.6	1.3	◎H27市 H28市【中2】	47.1 37.5		
5 (5)	資料を基に、参勤交代が始められたことによる藩や大名への影響について説明することができる。		○	○		○	記	54.1	21.1				
5 (6)	出島が置かれていた場所を、地図上から選ぶことができる。	○				○	選	64.2	1.4	H28市【中2】	47.9		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 特徴的な問題と解説

中学校第2学年 「世界の諸地域」

【特徴的な問題】

- 2 (1) 次の地図2と資料1は、地図1中のIの地域のEU各国の一人当たりの国民総所得と、主な国々のEU（EC）の加盟年を表にしたものです。地図2と資料1から分かるEUがかかえる課題について、次のページの〈説明文〉中の P に当てはまるように、簡潔に書きなさい。

地図2 Iの地域のEU各国の一人当たりの国民総所得

(注) 資料は省略

資料1 Iの地域にある主な国々のEU（EC）の加盟年

(注) 資料は省略

〈説明文〉

地図2や資料1で示された主な国々をみると、2000年以前にEU（EC）に加盟した国より2000年以降にEUに加盟した国の方が P ことが分かる。

第1学年 地理「世界の諸地域」

出題の趣旨

本問題は、平成27年度市調査及び平成28年度市調査において継続して課題がみられた「複数の資料を関連付けること」に関する問題である。今回は、2000年以前にEUに加盟した国と2000年以降にEUに加盟した国の国民総所得に違いがあることを、2つの資料を関連付けて読み取り、加盟国間で経済格差がみられることを説明することができるかどうかをみる問題を出題している。なお、記述して解答する問題については、無解答率が高く、継続的な課題である。今回は、資料から読み取った内容を説明した文章の中の一部を解答する形で出題している。

指導のポイント (因子④ アクティブ・ラーニング)

○ 資料の読み取り方の視点を身に付けさせる

地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することは、言語活動の充実を図る意味で大変重要な学習活動である。しかし、過去の市調査において、複数の資料を読み取り、自分の言葉で説明したり、表現したりすることに課題がみられるとともに、記述式の問題で無解答率が高い傾向がみられた。

このような課題を改善していくためには、ワークシートやノートを工夫して、資料から読み取れる内容を文章で記述させたり、図で表現させたりすることが大切である。また、小グループでの学習活動などの多様な学習形態や、あらかじめ指定したキーワードを入れて記述したり、説明したりする学習活動などを計画的に取り入れることが必要である。

○ 複数の資料を関連付け、表現する活動の充実を図る

本問題で提示した資料1や資料2は、主題図や棒グラフ、年表などにしても同様の社会的事象が読み取れる資料が作成できる。授業の中でICTを活用するなどして様々な資料を提示したり、生徒が自ら資料を作成したりする活動を通じて資料に対する関心を高め、読み取ったことを説明できる力を育てていくことが大切である。



中学校第2学年 「世界と比べた日本の地域的特色」

【特徴的な問題】

- 3 (4) 下線部(d)について、あつみさんは日本の水産業について興味をもち、次の資料3、資料4をみつけました。
- 資料3は、地図1中の枕崎、境(境港)、紋別の各漁港の水揚げ量の魚種別割合を、資料4は主な魚の適水温を示したものです。資料3、資料4を参考に、資料3中のX～Zと地図1中の漁港との組み合わせとして正しいものを、下の表のA～Eの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

第2学年 地理「世界から見た日本の姿」

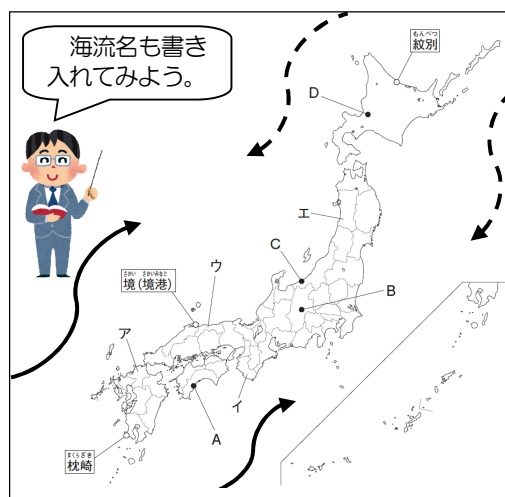
出題の趣旨

本問題は、平成28年度市調査において課題がみられた「複数の資料を関連付けること」に関する問題である。今回は、会話文と地図を基に、日本の水産業について、資料を読み取りながら基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題を出題している。

指導のポイント (因子② 基礎アップ、因子④ アクティブ・ラーニング)

- 日本近海の海流に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る

本問題の地図1には、暖流と寒流について書かれていないが、日本近海の海流に関する基礎的・基本的な知識が定着しているかを問う内容であり、枕崎、境(境港)、紋別の周辺がどういった海流に沿っているかを把握することがポイントである。学習活動においては、右の【図1】のように教科書等を参考にしながら、黒潮や対馬海流といった暖流と、親潮やリマン海流といった寒流があることに気付かせるため、白地図に着色させたり、地図上に海流を名称とともに描かせたりする活動も有効である。

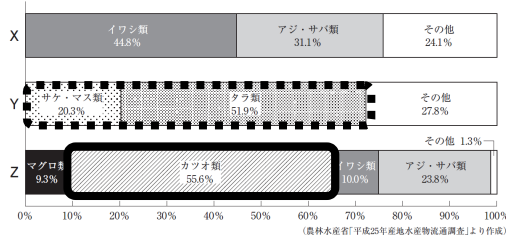


【図1】

- 複数の資料からわかることを自分の言葉でまとめさせる

本問題の資料3にあるX～Zがどの漁港であるかは、資料4を参考にして解答を導くことができる。資料4での寒流に多く生息する魚の種類(点線枠)と、暖流に多く生息する魚の種類(実線枠)の分類を基にして資料3をみると、Yが紋別、Zが枕崎であることが分かる。具体的な学習活動としては、資料3、資料4から分かることを、個別学習でそれぞれ箇条書きにまとめさせ、その結果を小グループで話し合わせる活動などが考えられる。

資料3 枕崎、境(境港)、紋別の水揚げ量の魚種別割合



資料4 主な魚の適水温

魚の種類	適水温
カツオ	18℃以上
サンマ、クロマグロ、サバ、イワシ、アジ	10℃以上18℃未満
サケ、マス、タラ	10℃未満

*適水温：魚が活動するのに最も適した温度のこと。(鹿児島県「水産ブック」等より作成)

Yの漁港では、「サケ・マス類」「タラ類」の適水温が低い魚が多く獲れることが分かるね。



Zの漁港だけ、一番適水温の高い「カツオ類」が獲れるということは…

中学校第2学年 「古代までの日本～近世の日本（テーマ史）」

【特徴的な問題】

- 4 (3) カードBについて、徳川吉宗が行った改革について説明した、次のX～Zの文の正誤として正しい組み合わせを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

X 公事方御定書という裁判の基準となる法律を定め、庶民の意見を聞く目安箱を設置した。
 Y 人々に慈悲の心をもたせるため、極端な動物愛護政策である生類憐みの令を出した。
 Z 江戸の湯島に昌平坂学問所をつくり、ここでは朱子学以外の学問を教えることを禁じた。

ア X 誤 Y 正 Z 誤
 イ X 正 Y 誤 Z 誤
 ウ X 誤 Y 誤 Z 正
 エ X 正 Y 誤 Z 正

第2学年 歴史「近世の日本」

出題の趣旨

本問題は、江戸幕府による政治改革について、改革を行った人物や代表的な事例を正しく理解しているかをみる問題として出題した。平成28年度市調査【中2】（正答率4 (3) 40.6%）においても同一の問題を出題しているが、政治改革の内容とそれを行った人物について混同して理解しているなどの課題がみられたため、今年度も継続して出題している。

指導のポイント（因子④ アクティブ・ラーニング）

- 江戸時代の政治改革が行われた時代背景に着目させ、理解を深めさせる

それぞれの政治改革の内容を、単なる暗記として授業で取り扱うのではなく、何を意図して改革を行ったのかを、財政の悪化や欧米諸国の接近の事情といった当時の時代背景と結び付けて理解させることが大切である。

例えば、徳川吉宗による享保の改革であれば、生類憐みの令を出した5代将軍徳川綱吉の頃から江戸幕府は財政難に苦しんでいたことや、徳川吉宗自らが質素・倹約を実行し、米の値段の安定に努めたことを理解させたい。さらに、具体的な政策として、「米将軍」と呼ばれる要因ともなった上げ米の制や新田の開墾、裁判の基準となる公事方御定書、庶民の意見を聞く目安箱の設置に加え、キリスト教に関係しない漢訳されたヨーロッパの書物の輸入を認めたことは、後の蘭学の発展に影響したことなどをおさえておきたい。

このように、それぞれの改革はその当時の幕府の財政、地方の様子、外国との関わりなど様々な情勢を踏まえて行われたものであるため、それぞれを関連付けて学習させることが望ましい。さらに、改革の実行に迫られた人物の葛藤や、影響を受けた人々の心境などに迫ると、一層の理解の深まりにつながると考えられる。

- それぞれの政治改革の内容を分類し、整理する学習を行う

4 (5) の問題のように類似する語句や内容を混同しないようにするためには、それぞれの政治改革の違いを確認する振り返りの時間を設けることも重要である。それまでの学習の積み上げをもとに各時代の特色の共通点や相違点に着目させながら、学習内容を整理することにより、基礎的・基本的な知識の確実な定着につながると考えられる。

学習した内容を基に、
自分の言葉でまとめる。

改革名	人物	内容
享保の改革	徳川吉宗	
寛政の改革	松平定信	
天保の改革	水野忠邦	

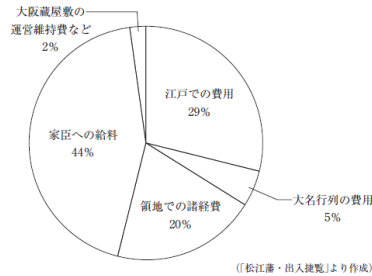
<例>江戸時代の政治改革に関する知識を
定着させるためのワークシート

中学校第2学年 「歴史的分野」

【特徴的な問題】

- 5 (5) 略年表中のDについて、三代将軍徳川家光は、参勤交代の制度を定めました。次の資料4は、松江藩の財政における支出内訳を示したものです。参勤交代の制度は、藩にどのような影響を与えましたか。資料4を参考にして、簡潔に書きなさい。

資料4 1768年の松江藩（島根県）の支出内訳



第2学年 歴史
「近世の日本」

出題の趣旨

本問題は、平成28年度市調査において課題がみられた「資料を基に、政策が行われたことによる影響について説明すること」と「江戸幕府の政治制度について理解していること」に関する問題である。今回は、「参勤交代」について、「松江藩の財政における支出内訳」の資料から答える問題を出題し、必要な情報を的確に読み取る力や、読み取ったことを関連付けて考える力をみるために出題している。

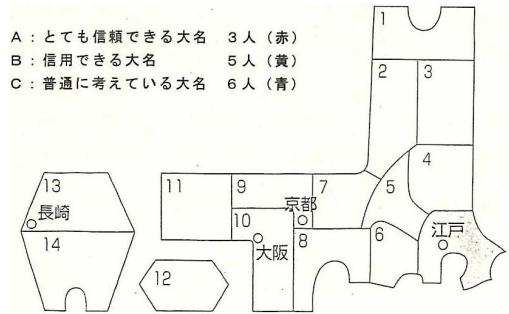
指導のポイント（因子④ アクティブ・ラーニング）

○ 江戸幕府の支配のしくみについて考察させる

江戸幕府の支配のしくみについて学習する上で、「大名の配置」の工夫を知ることが大切である。教師からの一方的な説明だけではなく、「もし、あなたが徳川家康だったら、大名をどう配置するか」と生徒に考えさせ、そのように配置した理由について、根拠に基づいて説明させる学習活動を行う。これにより、実際に江戸幕府が行った大名の配置との共通点や相違点を見だし、当時の工夫の意図についてせまることができるようにする。その際、個人の考えを基に、小グループでの意見交換をするなど、学習形態を工夫すれば、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業づくりにもつながると考えられる。

◎ もし、あなたが徳川家康だったら、次の14人の大名をどのように配置しますか。地図にA、B、Cを色分けしてみよう。また、そのように配置した理由も考えてみよう。

- A：とても信頼できる大名 3人（赤）
B：信用できる大名 5人（黄）
C：普通に考えている大名 6人（青）



予想される生徒の考え

A（親藩）は幕府に反乱を起こす心配はないけれど、C（外様大名）は、いつか裏切るかも…。
心配なので幕府から遠い場所に配置して、A（親藩）は近くに配置しようかな。

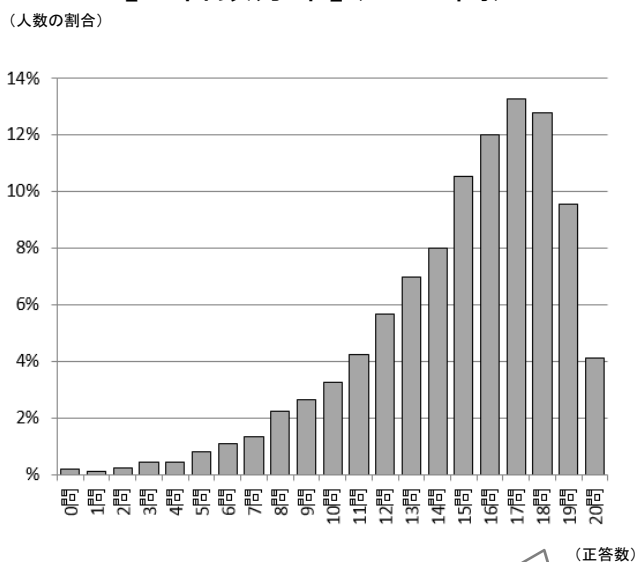
京都や大阪は重要な場所だから、とても信頼できる大名を置くことにしました。
四国や九州など、海を渡る必要がある地域からは、攻められにくいからC（外様大名）を置き、江戸との間にA（親藩）を置くことにしました。

信頼できる大名を、全国各地にちりばめて配置するのはどうかな。しかし、幕府が置かれた江戸からあまりにも遠ざけ過ぎると、幕府に対する不信任も生まれてしまうかもしれない…。

Ⅲ 調査結果概況【市全体】

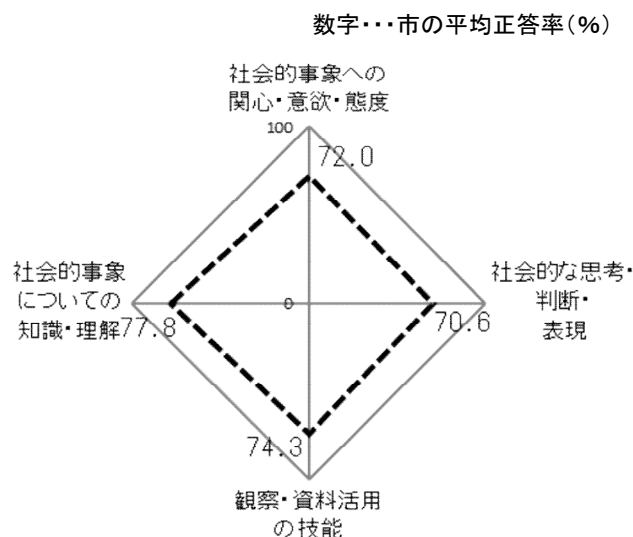
小学校第5学年【社会】

【正答数分布】(全20問)



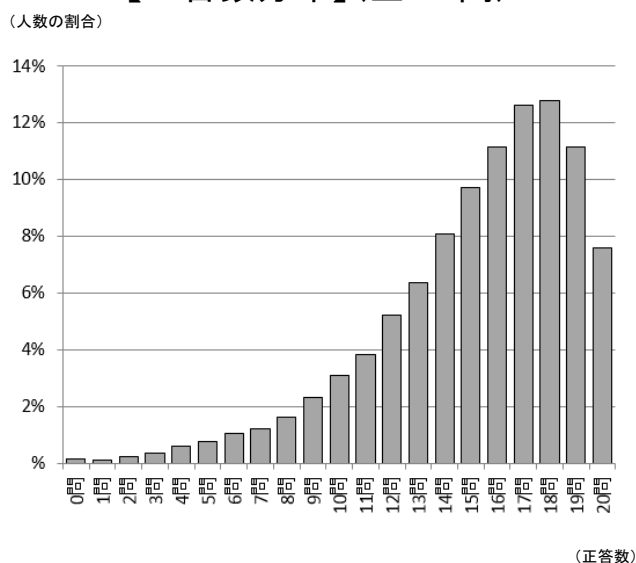
正答数ごとの人数の割合を示したものです。
例えば、20問中16問正答した児童の割合が12.0%程度であることを表しています。

【領域別レーダーチャート】

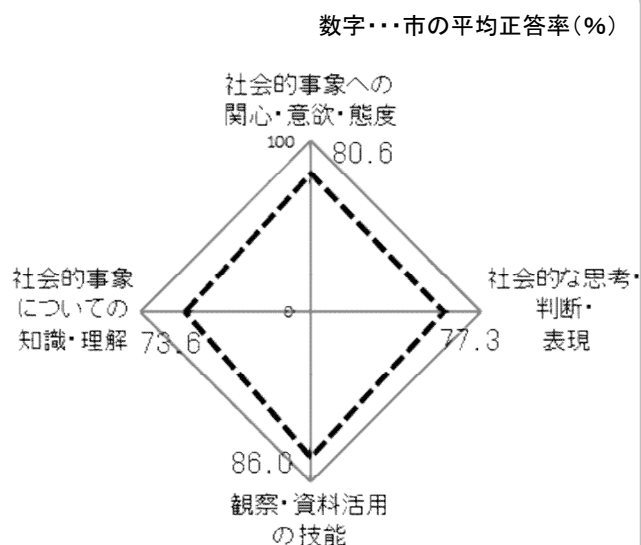


小学校第6学年【社会】

【正答数分布】(全20問)

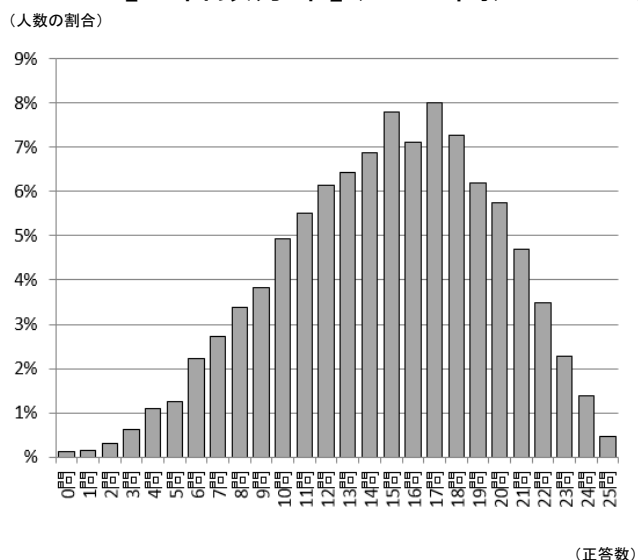


【領域別レーダーチャート】

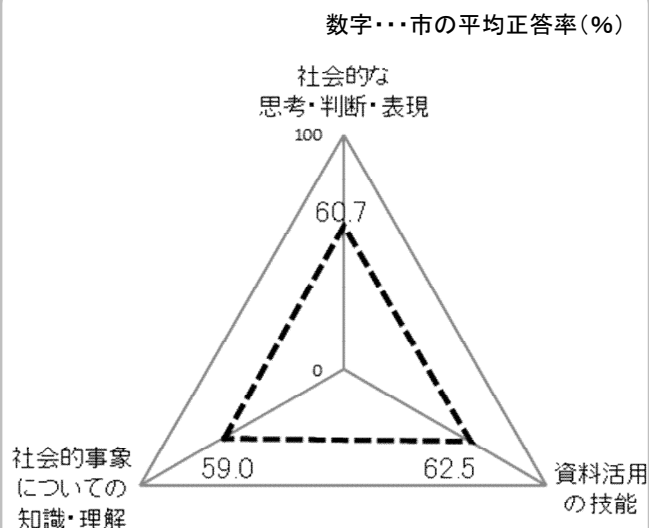


中学校第1学年【社会】

【正答数分布】(全25問)

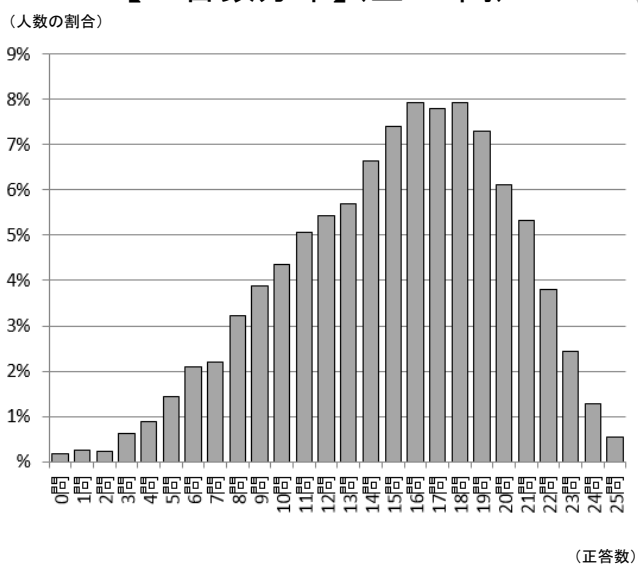


【領域別レーダーチャート】

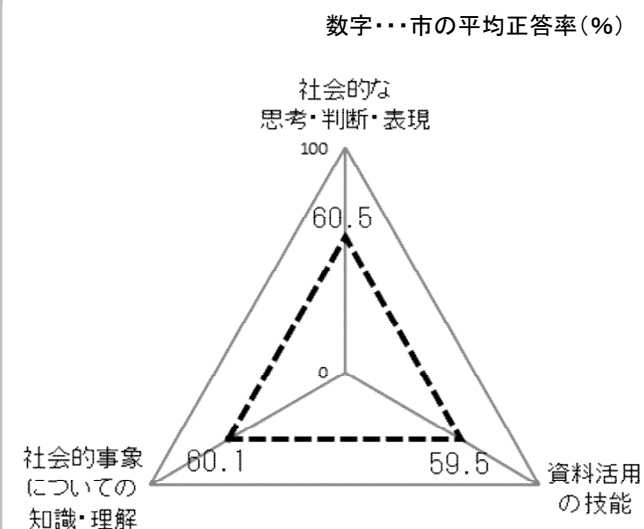


中学校第2学年【社会】

【正答数分布】(全25問)



【領域別レーダーチャート】



IV 成果と課題

(1) 小学校

<成果>

- 平成 26 年度から市調査において、継続して課題がみられた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」に関する問題については、概ね改善がみられた。出題の仕方によって正答率が変動するため、各学年で引き続き地図帳を活用しながら定着を図っていくことが求められる。
- 赤道についての理解は、小 5・小 6 とも改善傾向がみられる。赤道という用語を記述する問題は、赤道の位置を選択する問題より正答率が高い。地図や地球儀と対応させながら、基礎的・基本的な知識・理解を定着させたい。
- 「自然条件に適応し生活している人々の工夫」(小 5) や「貴族の生活の特色」(小 6) を分類・整理する問題の正答率が高い。授業において資料を読み取り、付箋などを活用しながら分類・整理する活動を取り入れていることがうかがえる。分類した社会的事象を関連付け、総合する言語活動を一層重視していくことが望まれる。

<課題>

- ▲資料の活用について、主な国の穀物の自給率のグラフから必要な情報を読み取り、資料を再構成することや、日本の工業生産額の変化について複数のグラフを関連付けて読み取ることによって課題がみられる。根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明する活動を意識的に行うことが大切である。
- ▲戦後、我が国が民主的な国家として出発したことについて選挙権が拡大されたことや日本国憲法が制定されたことの知識・理解を問う問題に課題がみられる。主権者教育や我が国の政治の働きと関連付けながら、正しい理解を図っていく。
- ▲「消火栓が道路沿いにある理由」や、「自動車の輸送と費用の関連」など 2 つの資料を関連付けて、文章で表現する問題に課題がみられる。それぞれの資料から分かったことをまとめるとどんなことが言えるか文章で表現する活動を意識的に行う必要がある。

(2) 中学校

<成果>

- 「緯線と経線が直角に交わった地図上の赤道や本初子午線の位置」や「世界地図に示された都市の気温と降水量のグラフの特色」(中 1、中 2) など、授業で繰り返し扱われることの多い地理的事象に関する問題の正答率が高い。地理学習の基礎的・基本的な内容についての知識の定着は図られている。
- 小学校でも学習している歴史上の人物についての問題では、「明治期に活躍した人物の業績」(中 1) や「年代の古い順の並べ替え」(中 2) に関する問題の正答率は比較的高い。「さいたま市小・中一貫教育」の視点を踏まえ、小学校社会の内容との関連を図った指導方法の工夫改善がみられる。
- 「冷帯でみられるタイガの様子」を選ぶ問題や、「古墳」「正倉院」「(太閤) 検地」など図版資料を基に、短答で答える問題の正答率が高い。授業における導入や資料提示の際に、ICT の積極的な活用による指導の効果がうかがえる。

<課題>

- ▲「地球儀を基にした世界の地域構成に関する問題」(中 1、中 2) や「地図を基に時差を求める問題」(中 2) において課題がみられる。地球儀や目的に応じた様々な地図を活用した学習活動を、地理的分野だけでなく、歴史的分野においても計画的に取り入れることが大切である。
- ▲「遣唐使」や「承久の乱」など、類似する用語と混同せずに正しい概念の理解が必要な問題や、「歴史上の人物が行った政策」(中 1、中 2) について、資料を基に説明する問題の正答率が低い。学習した知識や技能を活用してまとめたりする学習を工夫し、自分の言葉で表現する言語活動をさらに充実させたい。
- ▲「西暦と世紀の関係」(中 1、中 2) や、「中世以降の民衆の動きや文化」(中 2) に関する問題において課題がみられる。年表を活用し、単元のまとめとして、他の時代との共通点や相違点にも着目しながら、時代の特色を大きくとらえさせる学習の充実を図りたい。